



上場会社名 株式会社モブキャストホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3664 URL <https://mobcast.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 藪 考樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 岡田 晋 (TEL) 03-5414-6830
 四半期報告書提出予定日 2021年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第2四半期の連結業績 (2021年1月1日～2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第2四半期	2,376	37.6	△154	—	△186	—	△154	—
2020年12月期第2四半期	3,806	27.4	△328	—	△408	—	594	—

(注) 包括利益 2021年12月期第2四半期 △154百万円(—%) 2020年12月期第2四半期 594百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第2四半期	△5.16	—
2020年12月期第2四半期	23.81	23.72

(注) 2021年12月期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第2四半期	3,255	771	23.5
2020年12月期	3,622	865	23.8

(参考) 自己資本 2021年12月期第2四半期 765百万円 2020年12月期 862百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年12月期	—	0.00			
2021年12月期(予想)			—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年12月期の連結業績予想 (2021年1月1日～2021年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	5,500	△17.4	20	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 ー社(社名)ー 除外 ー社(社名)ー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年12月期2Q	30,570,308株	2020年12月期	30,008,308株
② 期末自己株式数	2021年12月期2Q	ー株	2020年12月期	ー株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年12月期2Q	30,011,413株	2020年12月期2Q	24,946,764株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算説明資料は、TDnetで同日開示する予定になります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間において当社は、前連結会計年度に引き続き、各社ごとにおける戦略に沿って、売上、利益の拡大を図るとともに、エンターテインメント分野における新たな事業領域への拡大を目指し新規の投資案件を継続して探しております。なお、当社が保有しておりましたトムス株式会社については、2020年6月26日に80%を譲渡し、2021年2月12日に残数全てを譲渡いたしました。

モバイルゲーム事業

モバイルゲーム事業につきましては、前連結会計年度において、当社の子会社であるモブキャストゲームスを存続会社として株式会社ゲームゲートを吸収合併しました。それに伴い、ゲームゲートの得意分野であるアニメ等のIPを使用するゲームを中心としたデジタルコンテンツのプロデュースを戦略の軸として進めております。

売上につきましては、「転生したらスライムだった件～魔国連邦創世記（ロードオブテンペスト）～」は、TVアニメ第2期第1部（2021年1月～3月）の放送に伴う連動施策を実施した事による好影響が当期も継続し、堅調に推移しました。また、2021年6月2日に日本国内で配信を開始しました「sin 七つの大罪 X-TASY」は、App StoreとGoogle Playにて無料ゲームランキング1位を記録し、幸先の良いスタートをきりました。加えて、プロ野球最強オーダー編成バトル「モバプロ」及び2021年2月に日本国内で配信を開始した「盾の勇者の成り上がり～RERISE～」につきましても引き続き堅調に推移しております。その結果、売上高は1,027,969千円（前年同四半期の売上高は1,537,567千円）となりました。

さらに、前連結会計年度においてゲーム事業の体質改善を行い、当期も引き続きコスト削減を推し進めた事もあり、営業利益は67,801千円（前年同四半期は営業損失8,698千円）となりました。

キッチン雑貨事業

キッチン雑貨事業を営む株式会社ゆとりの空間は、雑誌やテレビなどのメディアでなじみ深い料理家の栗原はるみ氏が暮らしを楽しむコツやライフスタイルを提案する生活雑貨ブランド「share with Kurihara harumi」とレストラン&カフェ「ゆとりの空間」をプロデュースし、オリジナルの食器やキッチン雑貨、調味料、インテリア小物、エプロン、ウェアなどを全国の百貨店、アウトレットなどで販売しております。また同じく料理家である栗原心平氏が出演するYou Tube公式チャンネル「ごちそうさまチャンネル」を開設、動画内で使用したキッチンアイテムやこだわりの商品、厳選した産地直送の食品を販売する「ごちそうさまチャンネル Officialオンラインショップ」を展開し、新たな顧客獲得を進めております。

全国の百貨店などに出店している小売店舗については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による度重なる緊急事態宣言・まん延防止等重点措置によって、外出自粛や出店している一部の百貨店からの要請による臨時休業・営業時間の短縮を行うなど、依然として厳しい状況が続いております。そのような状況下において、5月に「初夏のファッションフェア」、6月には「サマーセール」を開催したことに加え、6月20日には3回目の緊急事態宣言が解除され一時的に客足が回復したことによって、売上は堅調に推移しました。また、モブキャストグループ参画後より強化しているEコマースは、6月の「サマーセール」にて売上を伸ばしたものの、オンラインショップへの不正アクセスが発覚し（2021年3月31日付開示「当社子会社が運営するオンラインショップへの不正アクセスによる個人情報漏えいに関するお詫びとお知らせ」）、クレジットカード決済を一時休止したこともあり前四半期比10.4%の減収となりました。しかしながらロイヤリティ収入などが下支えとなり、売上高は1,330,368千円（前年同四半期の売上高は1,181,193千円）営業損失は19,702千円（前年同四半期は営業損失7,976千円）となりました。また、前年同四半期については、新型コロナウイルス感染症による休業に関わるコストを特別損失として計上しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの売上高は、2,376,680千円（前年同四半期は売上高3,806,968千円）、営業損失は、154,479千円（前年同四半期は営業損失328,186千円）となりました。また、営業外費用として「支払利息」13,436千円、「持分法による投資損失」10,971千円等を計上したことにより、経常損失は186,738千円（前年同四半期は経常損失408,600千円）となりました。さらに、トムス株式を売却したことにより、特別利益として「投資有価証券売却益」64,800千円を計上、また、特別損失として「情報セキュリティ対策費」28,197千円を計上した結果、税金等調整前四半期純損失は150,135千円（前年同四半期は税金等調整前四半期純利益

676,294千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は154,979千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益594,080千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より366,112千円減少し、3,255,994千円となりました。これは主に、現金及び預金が128,241千円、受取手形及び売掛金が229,083千円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末より272,765千円減少し、2,484,166千円となりました。これは主に、短期借入金が128,292千円、支払手形及び買掛金が29,620千円、1年内返済予定の長期借入金が36,620千円、社債が23,200千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末より93,347千円減少し、771,827千円となりました。これは主に、利益剰余金が154,979千円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ128,243千円減少し、296,680千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動による資金の減少は、85,013千円(前年同四半期は570,634千円の減少)となりました。これは主に、売上債権の減少229,083千円、法人税等の還付額46,583千円による資金の増加、税金等調整前四半期純損失150,135千円、前払費用の増加89,264千円等により資金が減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動による資金の増加は、87,642千円(前年同四半期は180,159千円の増加)となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入129,153千円により資金が増加したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動による資金の減少は、131,535千円(前年同四半期は105,607千円の増加)となりました。これは主に、長期借入れによる収入175,431千円による資金の増加、短期借入金の純増減額128,292千円、長期借入金の返済による支出191,429千円により資金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループはこれまで培ってきた「モバイルインターネット領域におけるサービス開発および運営ノウハウの提供、ブランド資源の価値最大化のプロデュース及び経営支援を行うことで、グローバルでの事業成長を実現し、日本のエンターテインメント業界を革新させ、さらなる発展に貢献する」ことを重要な戦略と位置付けています。

モバイルゲーム事業につきましては、2020年1月にモブキャストゲームスがゲームゲートを吸収し、新たな体制でゲームゲート経営陣が得意とするIPを用いたゲーム及びデジタルコンテンツ等のプロデュースを中心に進めるとともに、旧経営体制での不採算タイトル等は2020年12月期中に一掃いたしました。2021年12月期につきましては、新作3本の配信、新規事業についてはIP創出等を手掛ける予定であり、これらのゲーム事業、新規事業での海外展開により国外での収益獲得も目指してまいります。上記新作3本のうちの1本「sin 七つの大罪 X-TASY」は、2021年6月2日

に日本国内で配信を開始し、App StoreとGoogle Playにて無料ゲームランキング1位を記録し、幸先の良いスタートをきりました。2021年2月に配信を開始した「盾の勇者の成り上がり～RERISE～」につきましても引き続き堅調に推移しております。

また、キッチン雑貨事業においては、2020年12月期に引き続き2021年12月期も、栗原はるみ、栗原心平両氏のブランドコンセプト、ターゲットの明確化による販売戦略を促進するとともに、コロナ禍での巣ごもり需要ニーズにあわせた商品展開等によるEコマースの伸長と新規出退店計画による利益の増加を図ってまいります。

上記を踏まえた連結業績については、2021年2月12日の「2020年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	509,079	380,838
受取手形及び売掛金	688,141	459,058
商品及び製品	256,945	255,637
前払費用	231,011	320,466
その他	78,862	63,292
貸倒引当金	△20	—
流動資産合計	1,764,021	1,479,292
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	107,850	132,176
減価償却累計額	△52,492	△56,220
建物及び構築物(純額)	55,358	75,956
工具、器具及び備品	74,499	80,311
減価償却累計額	△57,346	△61,686
工具、器具及び備品(純額)	17,153	18,624
土地	800,000	800,000
その他	6,204	6,204
減価償却累計額	△1,551	△2,584
その他(純額)	4,653	3,619
有形固定資産合計	877,164	898,200
無形固定資産		
のれん	699,337	659,563
その他	4,302	9,660
無形固定資産合計	703,639	669,223
投資その他の資産		
投資有価証券	219,240	142,953
その他	64,341	72,624
貸倒引当金	△6,300	△6,300
投資その他の資産合計	277,281	209,277
固定資産合計	1,858,086	1,776,701
資産合計	3,622,107	3,255,994

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	249,036	219,416
短期借入金	358,352	230,060
1年内償還予定の社債	76,400	52,400
1年内返済予定の長期借入金	223,779	187,159
未払金	541,207	536,043
未払法人税等	6,819	7,258
前受金	201,721	235,664
その他	222,962	140,167
流動負債合計	1,880,278	1,608,168
固定負債		
社債	85,600	62,400
長期借入金	707,129	727,751
繰延税金負債	54,370	54,370
退職給付に係る負債	24,939	25,461
その他	4,615	6,015
固定負債合計	876,653	875,998
負債合計	2,756,932	2,484,166
純資産の部		
株主資本		
資本金	972,367	1,001,419
資本剰余金	626,689	655,740
利益剰余金	△736,041	△891,021
株主資本合計	863,014	766,138
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△33	△8
為替換算調整勘定	△691	△240
その他の包括利益累計額合計	△725	△248
新株予約権	2,885	5,937
純資産合計	865,174	771,827
負債純資産合計	3,622,107	3,255,994

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年6月30日)
売上高	3,806,968	2,376,680
売上原価	2,340,411	1,265,924
売上総利益	1,466,556	1,110,756
販売費及び一般管理費	1,794,743	1,265,236
営業損失(△)	△328,186	△154,479
営業外収益		
受取利息	153	18
受取賃貸料	3,600	3,600
その他	4,998	3,289
営業外収益合計	8,752	6,907
営業外費用		
支払利息	41,098	13,436
為替差損	818	138
株式交付費	1,225	200
支払手数料	15,567	2,517
持分法による投資損失	17,874	10,971
その他	12,583	11,900
営業外費用合計	89,166	39,166
経常損失(△)	△408,600	△186,738
特別利益		
子会社株式譲渡益	1,042,975	—
事業譲渡益	59,000	—
投資有価証券売却益	—	64,800
固定資産処分益	9,496	—
特別利益合計	1,111,472	64,800
特別損失		
固定資産除却損	3,545	—
情報セキュリティ対策費	—	28,197
店舗休業損失	22,938	—
その他	93	—
特別損失合計	26,577	28,197
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	676,294	△150,135
法人税、住民税及び事業税	82,225	4,844
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	82,225	4,844
四半期純利益又は四半期純損失(△)	594,068	△154,979
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△12	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	594,080	△154,979

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	594,068	△154,979
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	—	451
その他有価証券評価差額金	9	25
その他の包括利益合計	9	476
四半期包括利益	594,078	△154,503
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	594,090	△154,503
非支配株主に係る四半期包括利益	△12	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲及び持分法適用の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間において、持分法適用会社であった、株式会社トムスの全株式を譲渡したことにより、持分法適用の範囲から除外しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	モバイルゲ ーム事業	モーター スポーツ事業	キッチン雑 貨事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,537,567	1,083,764	1,181,063	3,802,394	4,573	3,806,968	—	3,806,968
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	130	130	—	130	△130	—
計	1,537,567	1,083,764	1,181,193	3,802,525	4,573	3,807,098	△130	3,806,968
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△8,698	△42,697	△7,976	△59,372	36	△59,335	△268,851	△328,186

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ等の取得及び再生事業等を含んでおります。
2. セグメント損失の調整額△268,851千円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社トムスの株式80%を売却し、連結の範囲から除外し、持分法適用関連会社としたことにより、「モータースポーツ事業」のセグメント資産は2,342,058千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「モータースポーツ事業」において、当社の連結子会社である株式会社トムスの株式80%を売却し、連結の範囲から除外したことにより、のれんのコに重要な変動が生じております。

当該事象によるのれんのコ減少額は、71,039千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	モバイルゲー ム事業	キッチン雑貨 事業	計				
売上高							
外部顧客への売 上高	1,027,969	1,330,368	2,358,337	18,343	18,343	—	2,376,680
セグメント間の 内部売上高又は振 替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,027,969	1,330,368	2,358,337	18,343	18,343	—	2,376,680
セグメント利益又 はセグメント損失 (△)	67,801	△19,702	48,099	5,199	53,298	△207,778	△154,479

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ等の取得及び再生事業等を含んでおります。
2. セグメント損失の調整額△207,778千円は全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社トムスの株式80%を売却し、連結範囲から除外したことに伴い、第1四半期連結会計期間より「モータースポーツ事業」セグメントを報告セグメントから除外しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

継続企業の前提に関する重要事象等を解消するための対応策等

当社グループは2015年12月期より、6期連続して営業損失を計上し、当第2四半期連結累計期間においても、営業損失154,479千円、経常損失186,738千円、親会社株主に帰属する四半期純損失154,979千円を計上したことから、継続企業の前提に関する疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると認識しております。

しかしながら、モバイルゲーム事業につきましては、前事業年度第4四半期会計期間から継続して営業利益を計上しております。ローリスクミドルリターンのプロデュース型のビジネスモデルへと切り替えを行うとともに、戦略外及び不採算タイトルからの撤退を行ってきたことから、安定して営業利益を計上できる体質へ転換いたしました。2021年12月期につきましては、日本国内で既に新作3本の配信を開始しております。当第2四半期連結会計期間においては5月に「幽☆遊☆白書」を、6月には「sin 七つの大罪 X-TASY」を配信開始しました。海外展開に関しては、著作権獲得と海外事業パートナーの開拓を進めており、2022年度以降に複数タイトルをアジア圏にて配信開始をする予定です。また、新規事業についてはIP創出事業として縦読みマンガ・ウェブトゥーンの開発を進めており、第4四半期連結会計期間中に事業開始をする予定であります。これらのゲーム事業、新規事業にて国内外での更なる収益獲得を目指してまいります。

また、キッチン雑貨事業につきましては、緊急事態宣言による一部の百貨店からの休業要請や外出自粛等の影響、ECサイトのセキュリティ強化対応中にクレジットカード利用を一時停止したことなどが影響し営業損失を計上しているものの、マーチャンダイジング改革等の成果によって前年同四半期対比で売上高は増加いたしました。さらに、料理家の栗原はるみ、栗原心平両氏それぞれのブランドコンセプトを明確に打ち出した2ブランド制へシフトし、SNS等を使ったターゲット層へよりダイレクトに伝わる販売戦略をもとにしたプロモーション活動を継続して実施してまいります。2021年12月期においても引き続き2ブランドごとの事業戦略に基づき、コロナ禍での消費者ニーズの変化に合わせ、EC事業の強化、百貨店販売の効率化及び新規事業等によって、売上高の拡大及び営業利益の黒字化を進めてまいります。

資金面では、2021年6月7日に株式会社SBI証券に対して発行した新株予約権の行使が2021年6月8日より開始されていることから、財務基盤は安定化が図られております。

以上により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる状況が存在するものの、重要な不確実性は認められないものと判断しております